



# 2010年3月期 決算説明会

2010年5月17日

石油資源開発株式会社

# 注意事項

本資料に掲載されている当社の現在の計画、見通し、戦略、その他歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しを示したものです。実際の業績は、さまざまな要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。

本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。

**Copyright:** 本資料に含まれるすべての内容に関する著作権は、当社が有しています。  
事前の承諾なく、これらの内容を複製もしくは転載することはお控えください。

注: 本資料において 1H,2H はそれぞれ上期、下期を、  
(a) は実績数値を、(e) は予想数値を示しています。

本資料に関するお問い合わせ、その他IRに関するご質問は、以下にお願いいたします。

石油資源開発株式会社 広報IR部 IRグループ 電話 03-6268-7111

# 目次

---

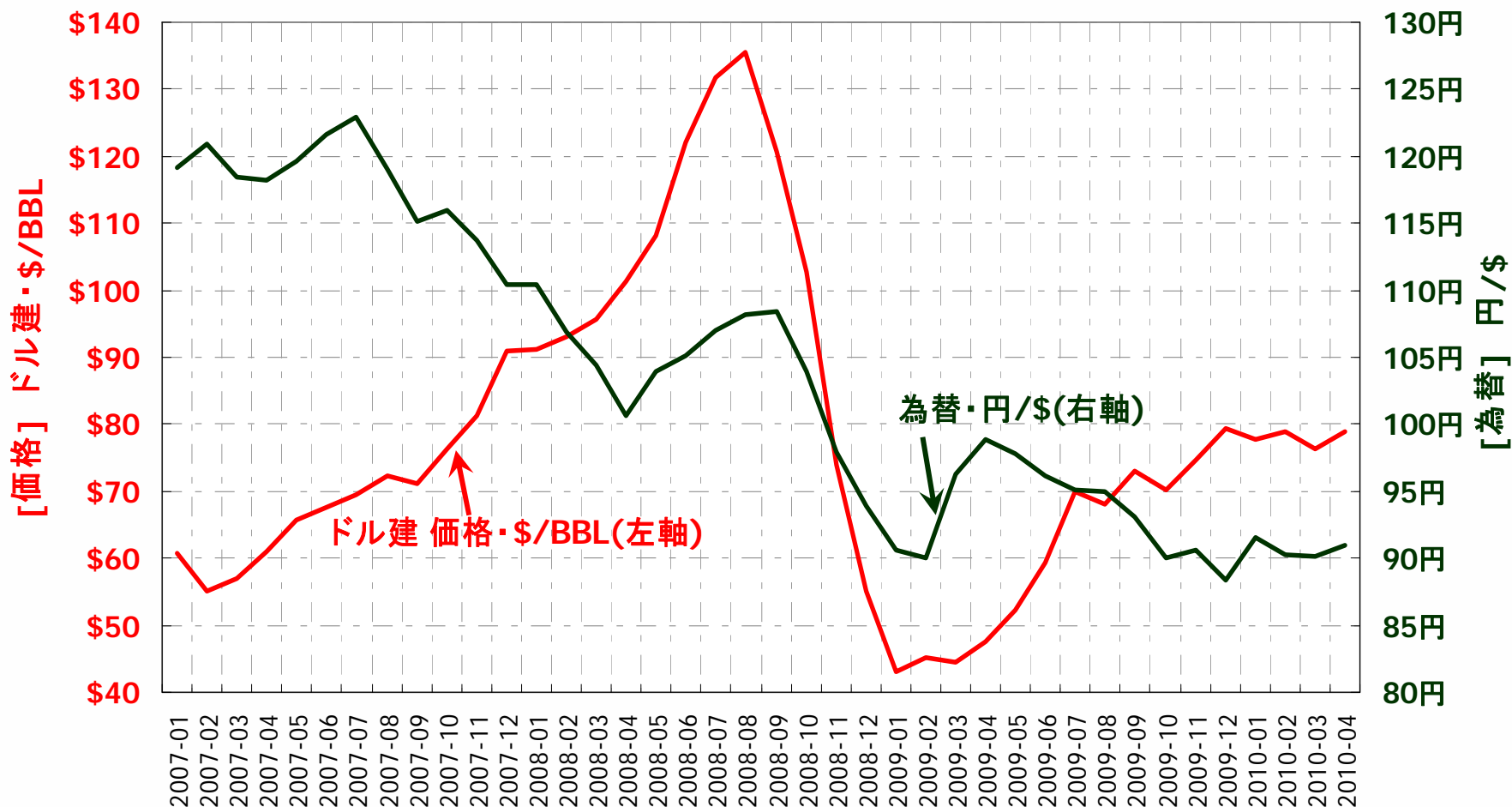
- 事業概況  
及び 中期事業計画のフォローアップ
- 2010年3月期 決算概要
- 2011年3月期 業績予想

# 事業概況 及び 中期事業計画のフォローアップ

---

代表取締役社長 渡辺 修

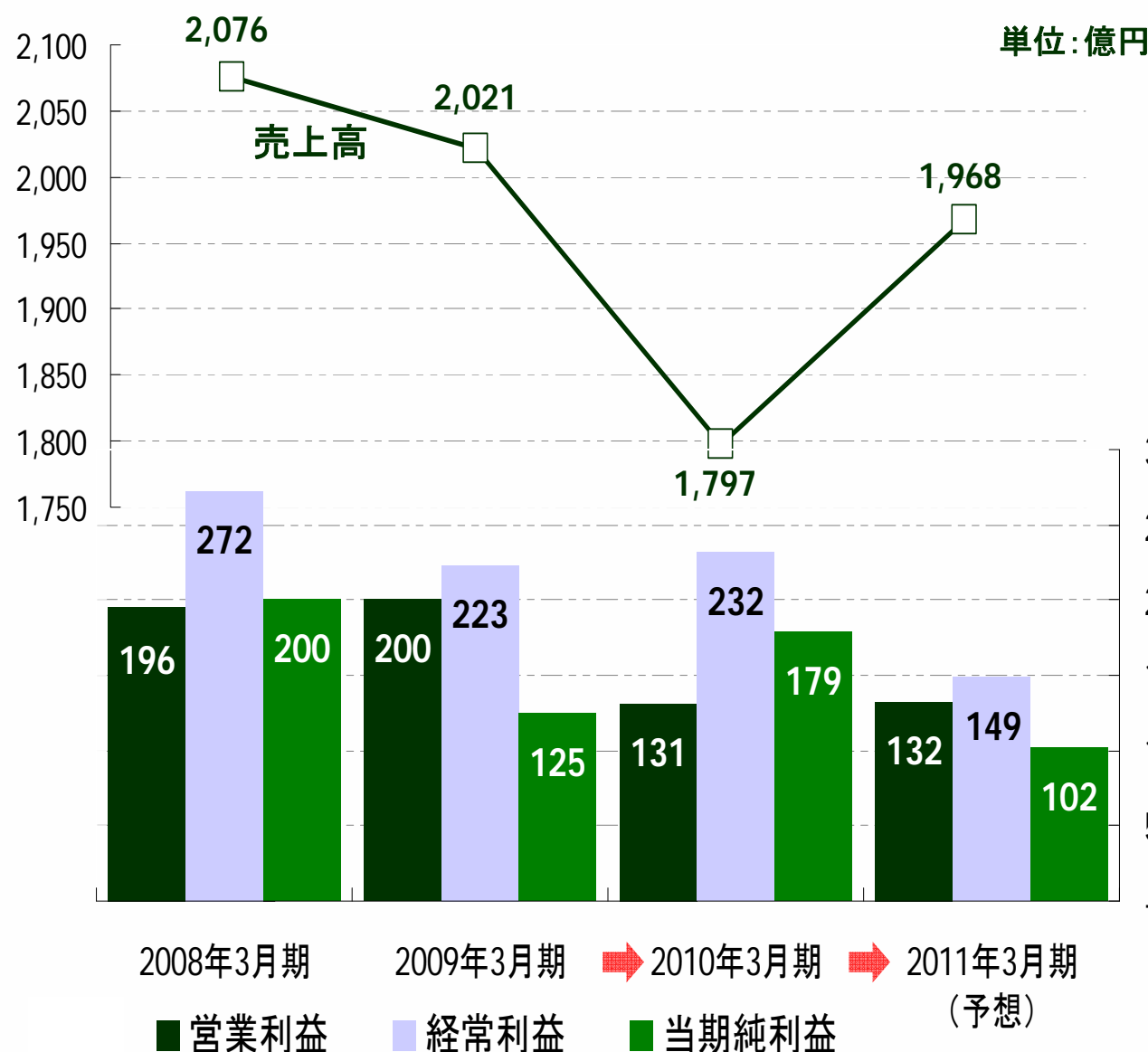
# 原油価格と為替の動き



2010年4月上旬分のCIF価格(速報)

**\$78.82 /BBL**    **91.01 円/\$**

# 10/3月期実績、11/3月期予想 [ハイライト]



## 【10/3月期実績】

営業利益 131億円

(前期比 ▲69億円)

当期純利益 179億円

(前期比 +53億円)

油価 \$67.50 為替 92.74円  
(前期比 ▲\$22.22 ▲9.82円)

## 【11/3月期予想】

営業利益 132億円

(前期比 +1億円)

当期純利益 102億円

(前期比 ▲76億円)

油価 \$80.00 為替 90.00円  
(前期比 +\$12.50 ▲2.74円)

## 中期事業計画(09/3月期～13/3月期)のフォローアップ

- I. 中期事業計画フォローアップの位置づけ
- II. 当社事業拡大の基本戦略
- III. 前提条件の見直し(油価、為替)
- IV. 定量目標の達成に向けた進捗状況
  1. 埋蔵量
  2. 天然ガス販売量
  3. 収支関連(天然ガス及び国産自社原油売上、連結損益・営業CF、CF配分)
- V. まとめ

2008年5月21日に公表した当社グループの中期事業計画(2009年3月期～2013年3月期)、および2009年5月15日に公表した当社グループの中期事業計画(2009年3月期～2013年3月期)の見直しの内容については、当社ホームページ内の以下のURLからご覧頂くことができます。

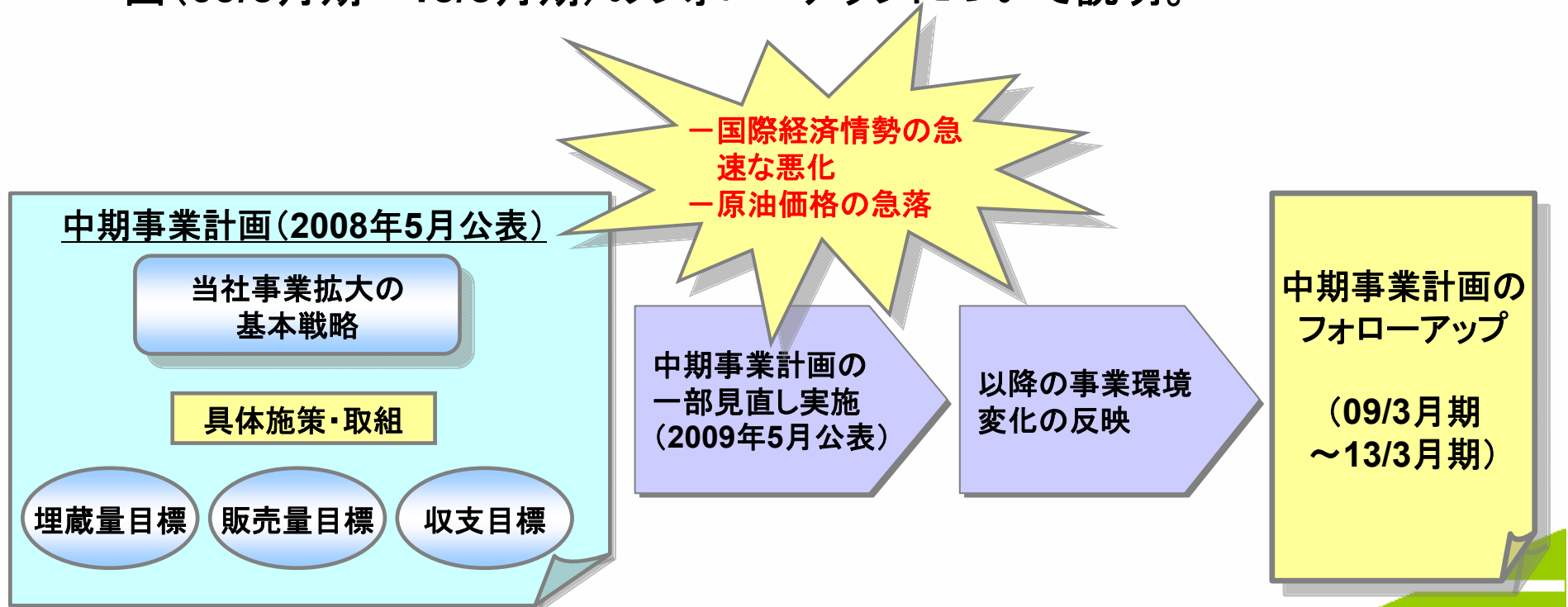
[http://www.japex.co.jp/pdf/2008/20080521c\\_japex.pdf](http://www.japex.co.jp/pdf/2008/20080521c_japex.pdf) 「当社グループの中期事業計画について」(文章)

[http://www.japex.co.jp/pdf/2008/20080521d\\_japex.pdf](http://www.japex.co.jp/pdf/2008/20080521d_japex.pdf) 「中期事業計画補足資料」(スライド)

[http://www.japex.co.jp/ir/2009/JAPEX\\_presentation\\_20090515b.pdf](http://www.japex.co.jp/ir/2009/JAPEX_presentation_20090515b.pdf) 「2009年3月期決算説明会」(スライド P7～P18)

# I. 中期事業計画フォローアップの位置づけ

- 2008年5月に公表した中期事業計画について、昨年5月に経済情勢の急激な悪化や油価の急落等を受け、収支目標等の一部見直しを実施。
- 本日資料では、上記見直し以降の事業環境変化を踏まえた中期事業計画(09/3月期～13/3月期)のフォローアップについて説明。





## II. 当社事業拡大の基本戦略

### ■ 当社の事業拡大に向けた基本方針(3本柱)と最近の取組み状況

基本戦略	概要	最近の取組み例
<p>1. 探鉱・開発による埋蔵量の拡充</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産・販売により減少する埋蔵量を維持・拡大。</li> <li>・長期に亘り安定的な石油・天然ガスの供給体制の更なる整備。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イラク・ガラフ油田権益を取得</li> <li>・インドネシアにおけるコールベッドメタン(CBM)鉱区を取得</li> <li>・カナダ・Hangingstone拡張開発の検討推進(2010年4月29日、アルバータ州政府に開発許可申請提出)</li> </ul>
<p>2. 天然ガス一貫操業システムの強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上流・中流・下流まで効率的な一貫操業システムの構築・強化。</li> <li>・当社のファシリティーと各種サービス機能を有機的に結合。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(株)ジャペックスエネルギーを設立</li> <li>・北海道勇払地区におけるLNG内航船受入基地建設を決定</li> </ul>
<p>3. 技術研究開発・地球環境問題への取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業活動に伴う環境負荷の低減努力や植林事業等の実施。</li> <li>・CCS、メタンハイドレート、GTL、DME等の技術研究開発。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本CCS調査(株)を通じたCCS実証試験等に係る調査受託を継続</li> <li>・北海道鉱業所における環境対策設備(放散ガス処理設備)建設</li> </ul>

## Ⅲ. 前提条件の見直し（油価・為替）

■ 2009年以降の着実な油価の回復を勘案し、以下のとおり想定。

- 油価：11/3月期以降80\$/bblベースで推移。
- 為替：2009年10月～2010年2月の水準(90円/\$)が11/3月期以降継続。

### 今が見直しにおける油価・為替の前提条件

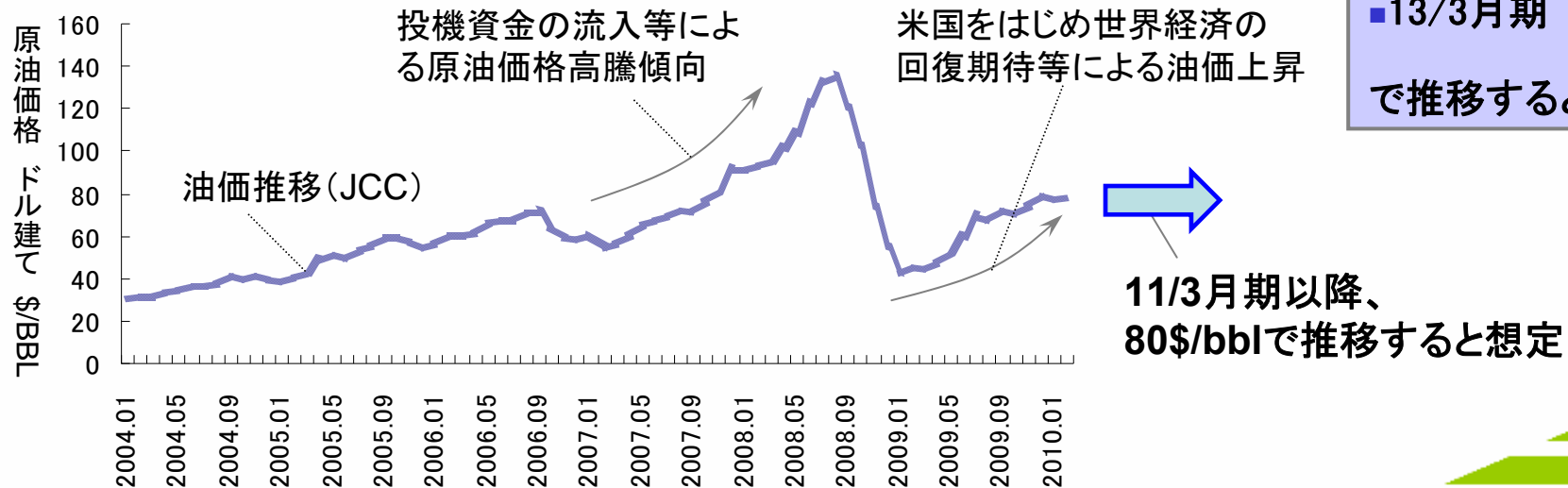
	09/3月期 実績(a)	10/3月期 実績(a)	11/3月期 見通し(e)	12/3月期 見通し(e)	13/3月期 見通し(e)
油価(\$/bbl)	89.7	67.5	80	80	80
為替(¥/\$)	102.6	92.7	90	90	90

【参考】

昨年見直し時点想定

- 10/3～11/3月期 \$40/bbl
- 12/3月期 \$60/bbl
- 13/3月期 \$80/bbl

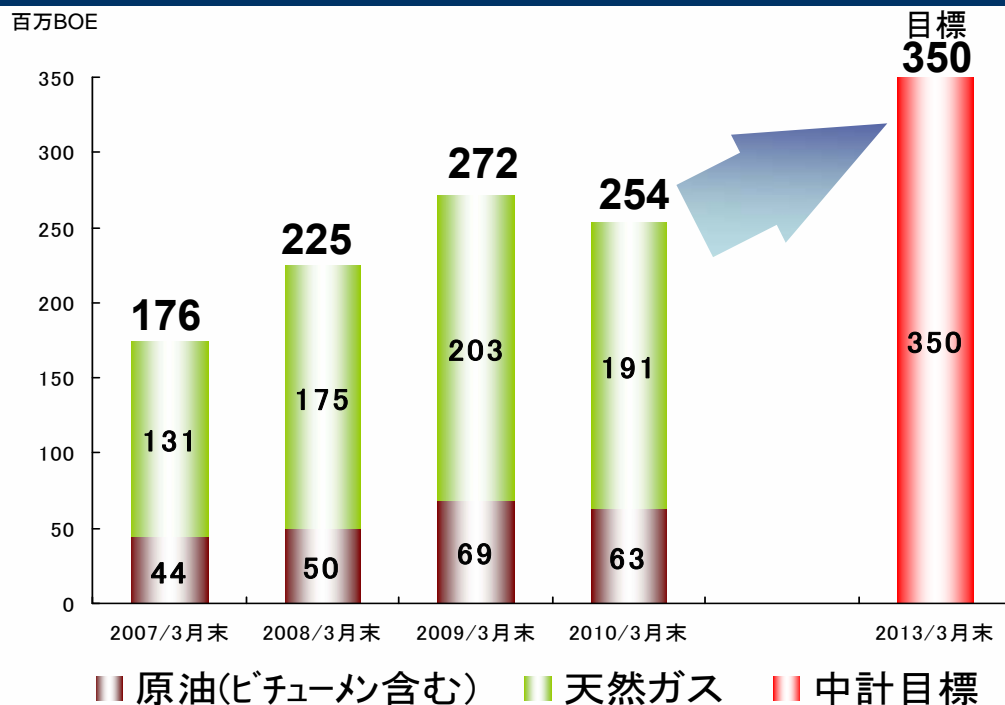
で推移すると想定。



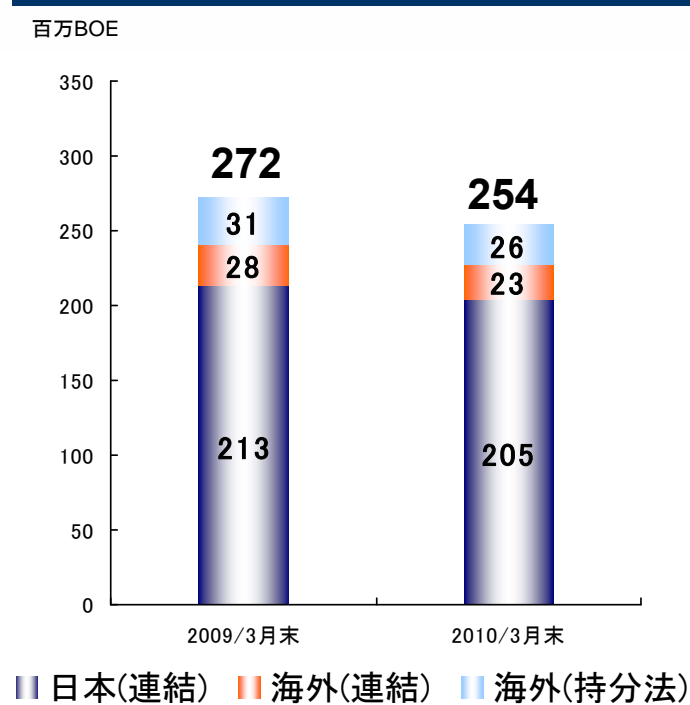
## IV. 定量目標の達成に向けた進捗状況 1. 埋蔵量

- 確認埋蔵量の目標は、2013年3月末時点で3.5億BOE(2007年3月末の約2倍)。
- 2010年3月末の確認埋蔵量は、前期比18百万BOE(約7%)減の2.5億BOE。
  - 減少内訳は、生産による減約14百万BOE、評価等による減約4百万BOE。
- 昨年落札したイラク・ガラフ油田の開発や、カナダHangingstone拡張開発(オイルサンド)の実現に向けた着実な取組み等を通じ、目標の上積み達成を目指す。

確認埋蔵量(油ガス別)の推移



確認埋蔵量(地域別)



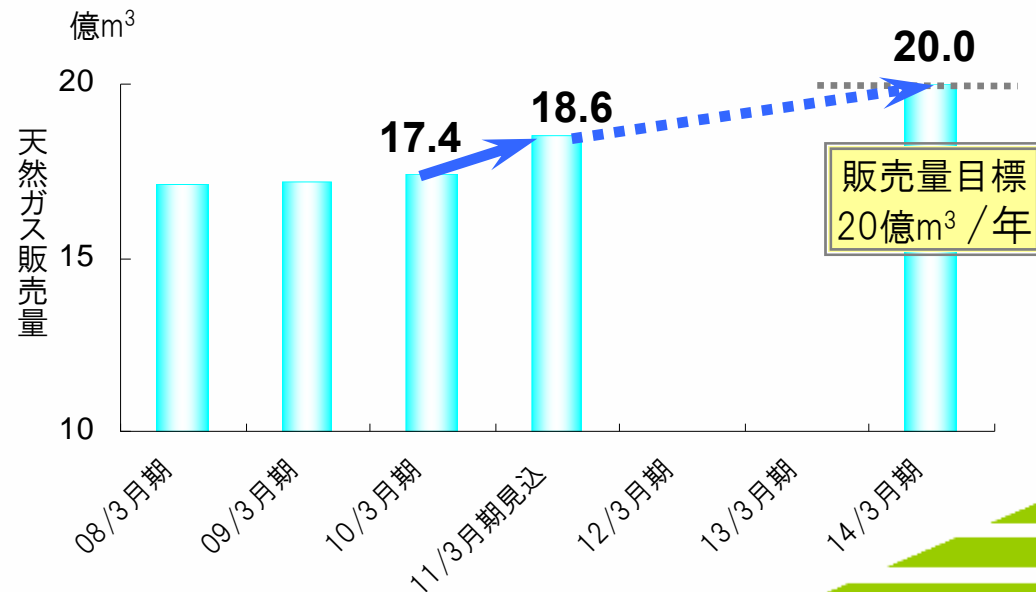
## IV. 定量目標の達成に向けた進捗状況 2. 天然ガス販売量

- 天然ガス販売数量目標は、14/3月期までに20億 $m^3$ を達成(LNGサテライトを含む)。
- 08/3～10/3月期までは、景気低迷の影響等を受け、ほぼ横ばいで推移。
- 11/3月期は前年度比約7%増を見込み、目標達成に向けた取組みを継続。

天然ガス販売量目標

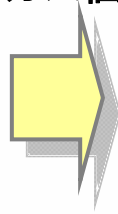
昨年5月 見直し	進捗状況
14/3月期 までに 20億 $m^3$	10/3月期 : 17.4億 $m^3$ 11/3月期見込: 18.6億 $m^3$

天然ガス販売量の推移



## IV. 定量目標の達成に向けた進捗状況 3. 収支関連(1)

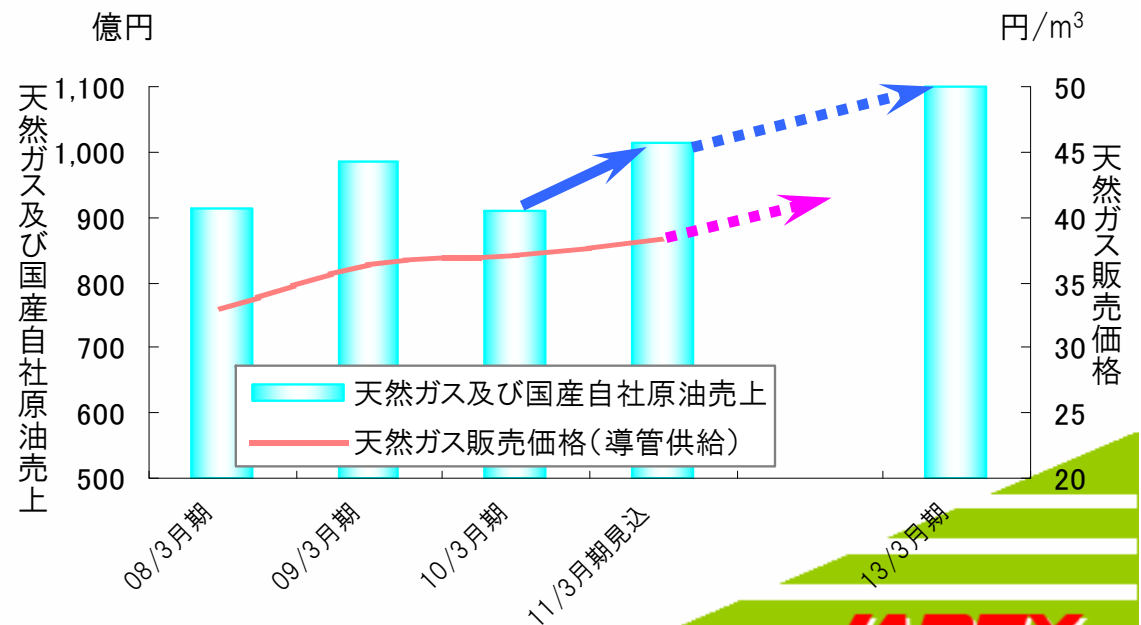
- 天然ガス及び国産自社原油の売上目標は13/3月期断面で1,100億円(油価80\$/bbl 前提)。
- 11/3月期は1,015億円を見込み、以降も拡販及びガス販売価格の適正化により目標達成を目指す。
  - ガス価格の適正化への取り組み
    - エネルギー市況の変動を一定程度反映した水準とすべく、LNG・CIFリンク価格適用対象となる大口供給先を拡大
    - 政府による国産天然ガス・輸入LNG混合原料費調整制度の整備と、卸供給先における同制度適用に伴い、卸価格体系の見直しを実施



### 天然ガス及び国産自社原油売上目標

昨年5月見直し	進捗状況
13/3月期断面で1,100億円の目標維持	10/3月期 : 910億円 11/3月期見込: 1,015億円

### 天然ガス販売価格推移



## IV. 定量目標の達成に向けた進捗状況 3. 収支関連(2)

### ■ 連結損益、営業キャッシュフロー

- 09/3～13/3月期の当期純利益見通しの5年間平均値は、昨年見直し時に比較して40億円(36%)増の150億円と想定。
- 同様に、営業キャッシュフロー(税引前・探鉱費控除前)の5ヵ年累計は、昨年見直し時に比較して450億円(20%)増の2,750億円と想定。
- 当期純利益、営業CFの増加は、油価前提の見直し、ガス販売価格の適正化努力、販管費の減少等による。

#### 連結損益見直し

(億円)

	昨年見直し 09/3～13/3月期平均	今回フォローアップ 09/3～13/3月期平均
売上総利益	530	570
探鉱費	110	110
当期純利益	110	150

注: 各期毎の当期純利益等の見直しは、油価・為替動向及び探鉱投資の発生状況等により大きく変動するため、5年間の平均値として表示しています。

尚、当期純利益の09/3、10/3期実績はそれぞれ126億円及び179億円、同11/3月期予想は103億円です。

#### 営業キャッシュフロー見直し

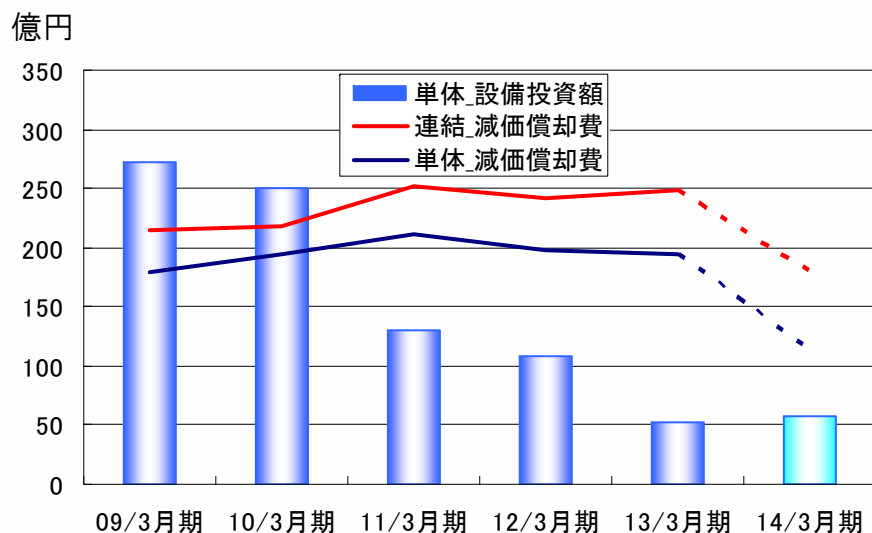
(億円、税引前・探鉱費控除前)

	昨年見直し 09/3～13/3月期累計	今回フォローアップ 09/3～13/3月期累計
売上総利益	2,650	2,850
販管費	-1,550	-1,500
減価償却費	1,200	1,200
コスト回収(イラク)	—	200
合計	2,300	2,750

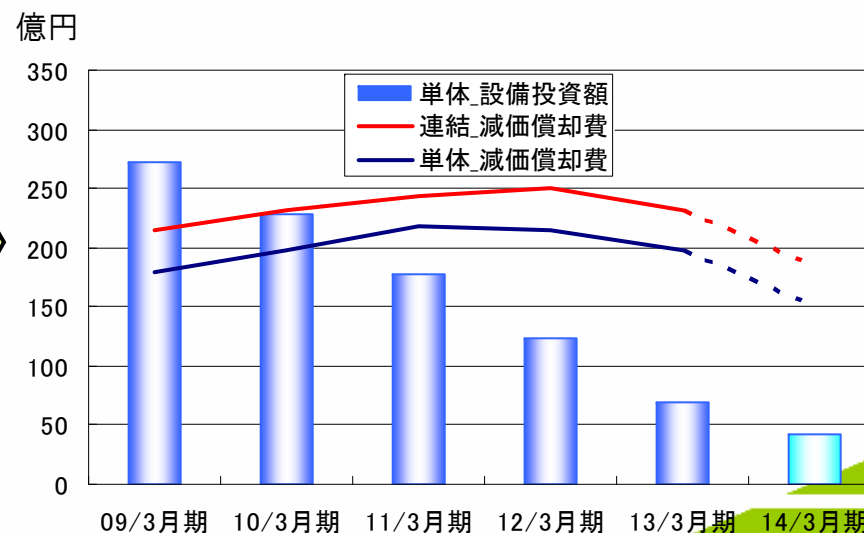
## 【参考】設備投資及び減価償却費の見通し

- 連結ベースの減価償却費は、12/3月期にピークを迎え、以降は減少傾向に転じる見通し。
  - 昨年5月見直し時点では、11/3～13/3月期にかけてピークが発生
- 単体ベースの設備投資額は、昨年見直し値と比べ、09/3～13/3月期の累計で約60億円の増加（期ズレによる年度単位での増減あり）。
  - 勇払LNG内航船受入基地建設（約50億円）の追加等

昨年5月見直し



今回フォローアップ



注：09/3月期、10/3月期 の単体設備投資額実績は有形固定資産、無形固定資産の双方を含んでいます。

## IV. 定量目標の達成に向けた進捗状況 3. 収支関連(3)

### ■ キャッシュフロー配分(見直し)

- イラク・ガルフ及びカナダオイルサンドHangingstone拡張開発(最終投資意思決定は未了)を、投資案件として追加計上。
- これらを含めても、13/3月期までの投資額は、概ね営業CFの範囲内。
- 但し、営業CFは油価変動等による下振れリスクもあり、適宜、借入による資金調達を検討。税負担及び株主還元の原資を確保した上で、更なる成長に向けた新規投資資金の調達も可能。

### 営業キャッシュフローの配分

(億円)

		昨年見直し 09/3～13/3月期	今回フォローアップ 09/3～13/3月期	09/3～10/3 月期 実績	11/3～13/3 月期 見通し
営業キャッシュフロー (5年累計) (a)		2,300	2,750	1,040	1,710
投資額	設備投資 (b)	900	960	540	420
	国内				
	海外	400	960*	80	880
	探鉱投資 (c)	370	430	160	270
	国内				
	海外	200	140	100	40
投資額計 (d)=(b)+(c)		1,870	2,490	880	1,610
キャッシュフロー累計 との差引 (a)-(d)		430	260	160	100
上記差引分用途		税金、株主還元、新規投資等	同 左(借入による調達を検討)		

\* 持分法適用会社への貸付等を通じた投資を含む。



## V . まとめ

- 昨年5月、中期事業計画の一部見直し結果を公表したが、その後の油価の着実な上昇や景気回復の兆候を踏まえ、中期事業計画策定期間(09/3~13/3月期)のフォローアップを実施。
- 事業拡大戦略の柱である「埋蔵量の維持拡大」、「天然ガス一貫操業システムの強化」、「技術研究開発・環境問題への取組み」の基本方針は引き続き堅持。
- 埋蔵量については、イラク・ガラフ油田の開発や、カナダオイルサンド Hangingstone 拡張開発の実現に向けた着実な取組み等を通じ、目標を上回る拡大を目指す。
- 中期事業計画策定期間(09/3~13/3月期)の収支見直し(損益・CF)は、油価前提の見直し、ガス販売価格体系の是正、販管費の減少等により、昨年見直しより改善。
- イラク・ガラフ油田開発、Hangingstone 拡張開発(最終投資意思決定未了)を投資計画に追加計上するが、これらを含めても13/3月期までの投資額は、概ね、営業CFの範囲内の水準。
- 但し、営業CFは油価変動等による下振れリスクもあり、借入による事業資金調達を検討。税金、株主還元の前原資を確保した上で、新規投資資金の調達も可能。

# 11/3月期 国内探鉱計画

## ◆ 試探掘井 掘削スケジュール

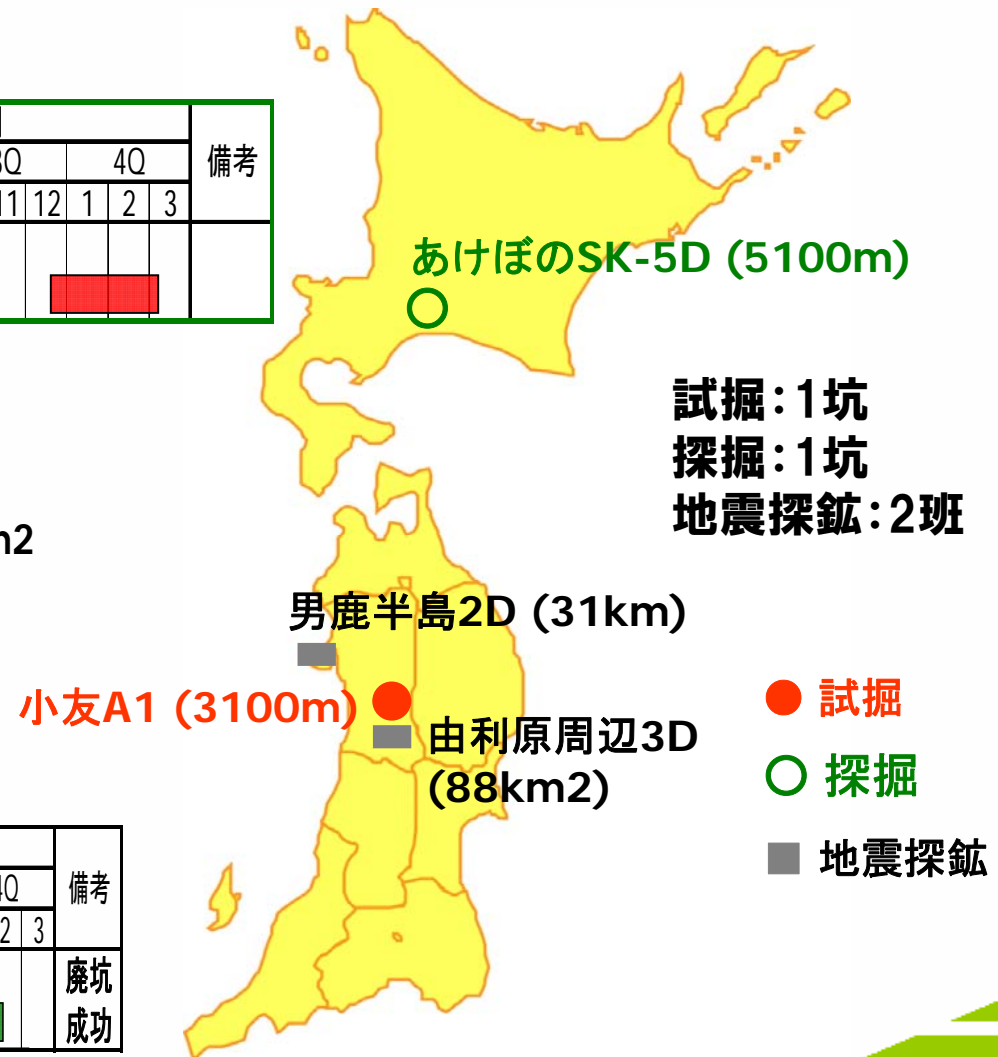
	坑井種類	掘削深度	11/3月期												備考	
			1Q			2Q			3Q			4Q				
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
あけぼのSK-5D	探掘	5,100 m	■													
小友 A1	試掘	3,100 m												■	■	

## ◆ 物理探鉱計画

- 2D 震探 : 秋田県(男鹿半島)で 31.0 km
- 3D 震探 : 秋田県(由利原周辺)で 88.0 km<sup>2</sup>

### □ 10/3月期 試探掘結果

	坑井種類	掘削深度	10/3月期												備考	
			1Q			2Q			3Q			4Q				
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
矢島高原 SK-1D	試掘	3,502 m						■	■	■						廃坑
岩船沖 MS-B18-1	探掘	2,300 m											■	■		成功



# 11/3月期 設備投資計画

[単位:億円]	08/3月期	09/3月期	10/3月期	11/3月期 (予想)
設備投資額	417	309	288	315
減価償却費	166	215	232	247

## ■ 11/3月期 主な設備投資項目

### □ 国内 設備投資 199億円

#### 北海道

勇払油ガス田 生産設備増強工事(来期へ継続)

#### 新潟県 採掘井 陸上 1坑 掘削

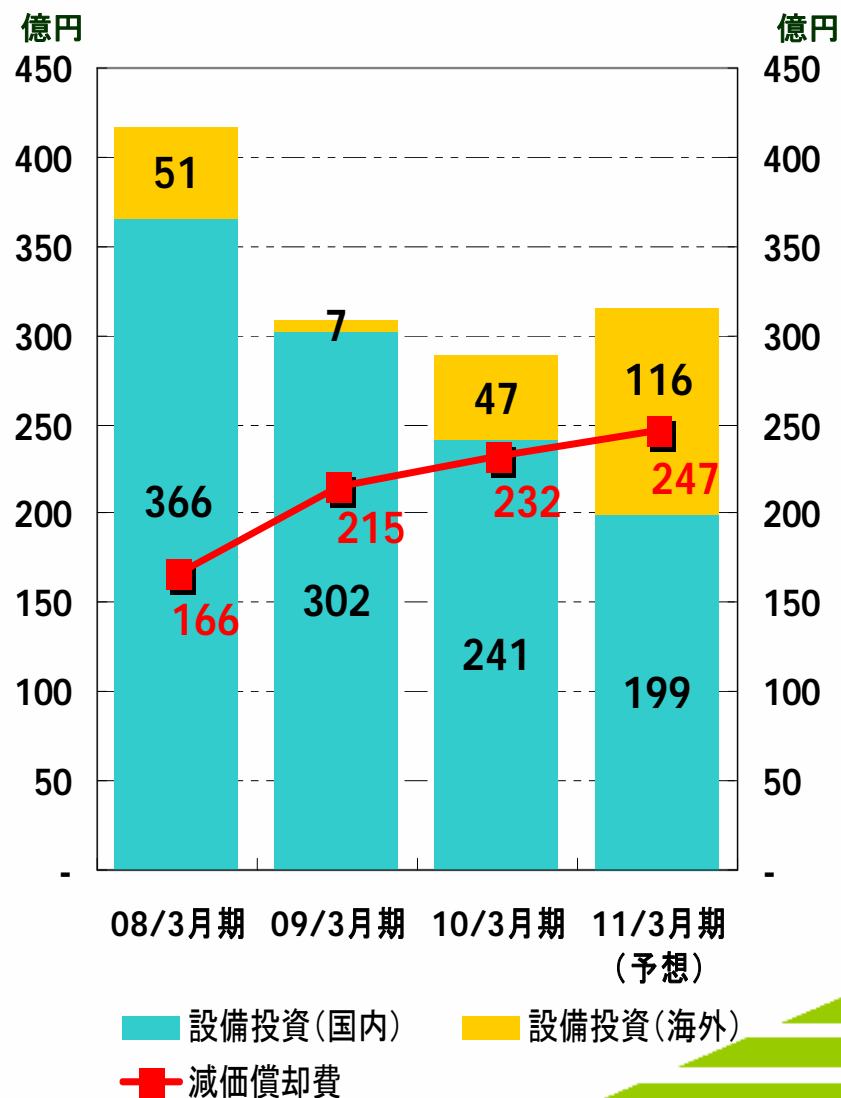
同県内油ガス田 生産設備増強工事(前期より継続)

### □ 海外 設備投資 116億円

イラク ガラフ油田 開発

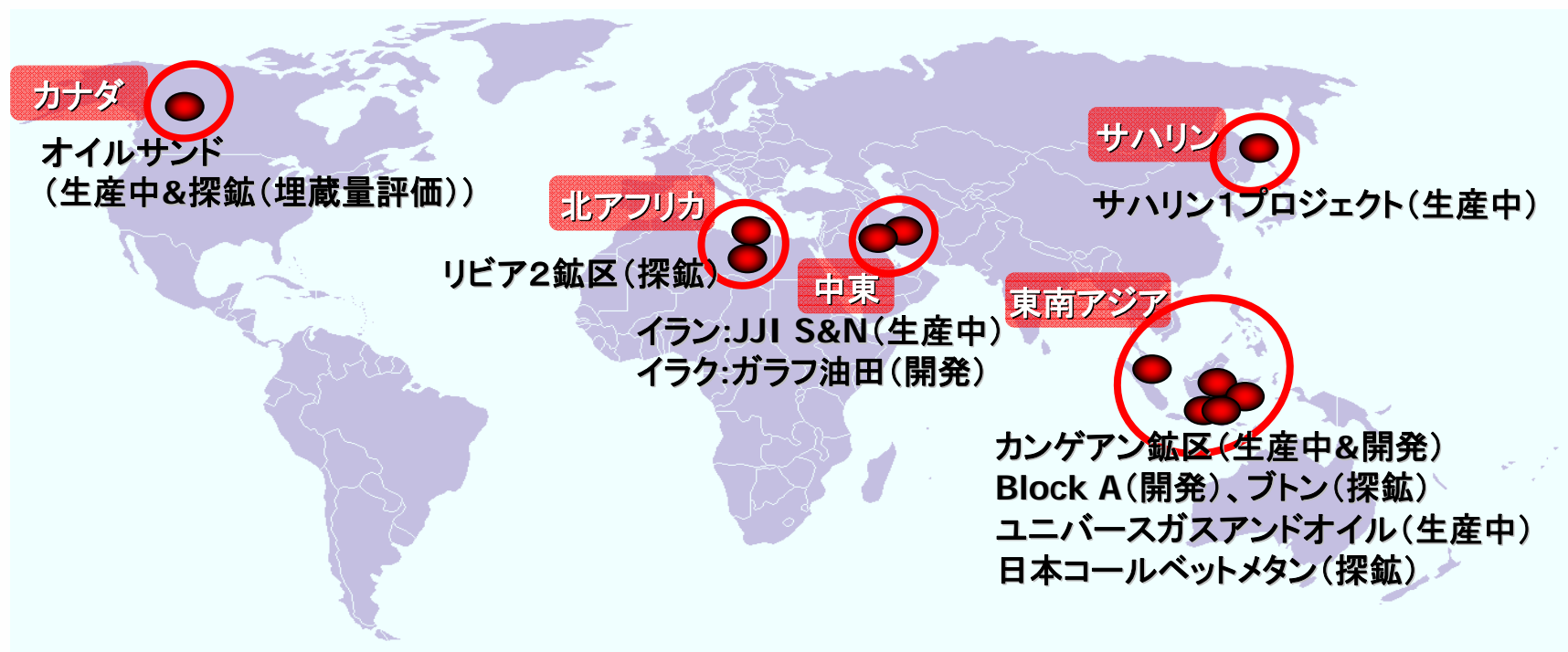
カナダ オイルサンド事業 操業設備改善工事

インドネシア Block A ガス田開発



# 海外事業【基本方針】

- 探鉱、開発プロジェクトの適切なポートフォリオ・バランスの構築
- 重点地域を設定し、地域集中戦略を継続
- LNG上・中流プロジェクトの発掘



## 重点地域

- 連結子会社および持分法関連会社等が権益を保有する鉱区

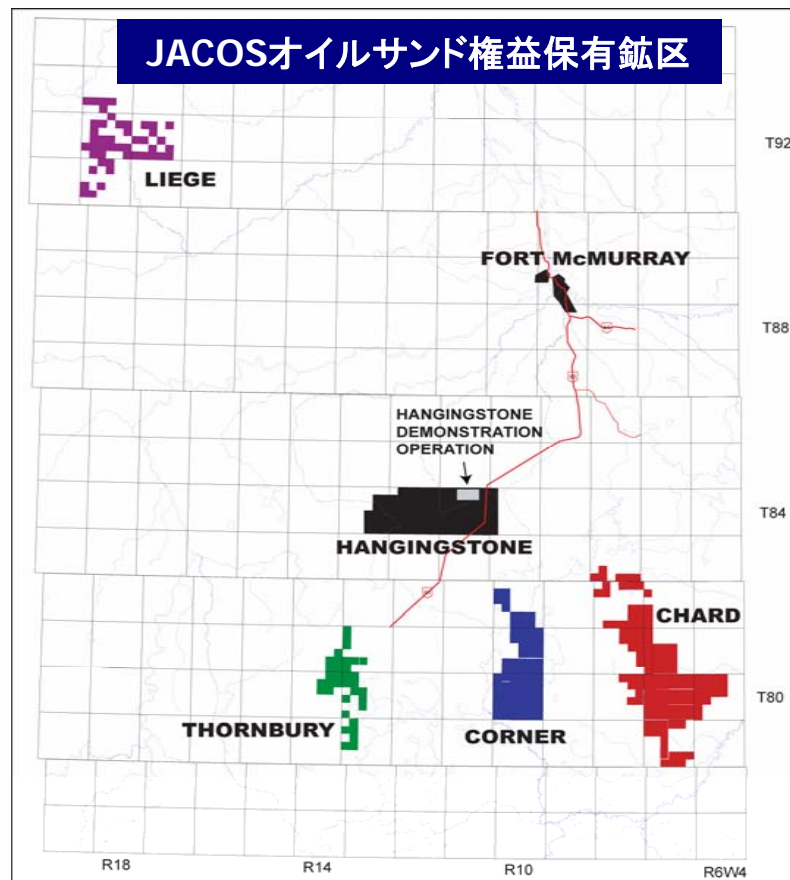
# 海外事業現況 ① カナダオイルサンド

## ■ カナダオイルサンド(株)

連結子会社 (当社 86.64%出資)

## □ オペレーター: Japan Canada Oil Sands Ltd.

(JACOS) カナダオイルサンド(株) 100%出資 現地法人



■ 生産鉱区: Hangingstone 3.75 セクション (権益比率: 100%) で、SAGD井19ペアから約7,000bbl/dで生産中

### ■ Hangingstone

未開発地域 (権益比率: 75%) 拡張開発計画  
 既存操業に加え、  
 新たに最大35,000bbl/d規模の追加生産を計画  
 2010年4月: 開発許可申請提出  
 基本設計に着手、開発許可の認定を取得後、  
 ⇒ 最終投資意思決定  
 2011/2012年 冬季 建設工事 着手、  
 ⇒ 2014年末、生産開始(見込み)

### ■ JACOSが保有するオイルサンド未開発鉱区

条件付資源量: 1,717百万bbl (2008年12月末現在)

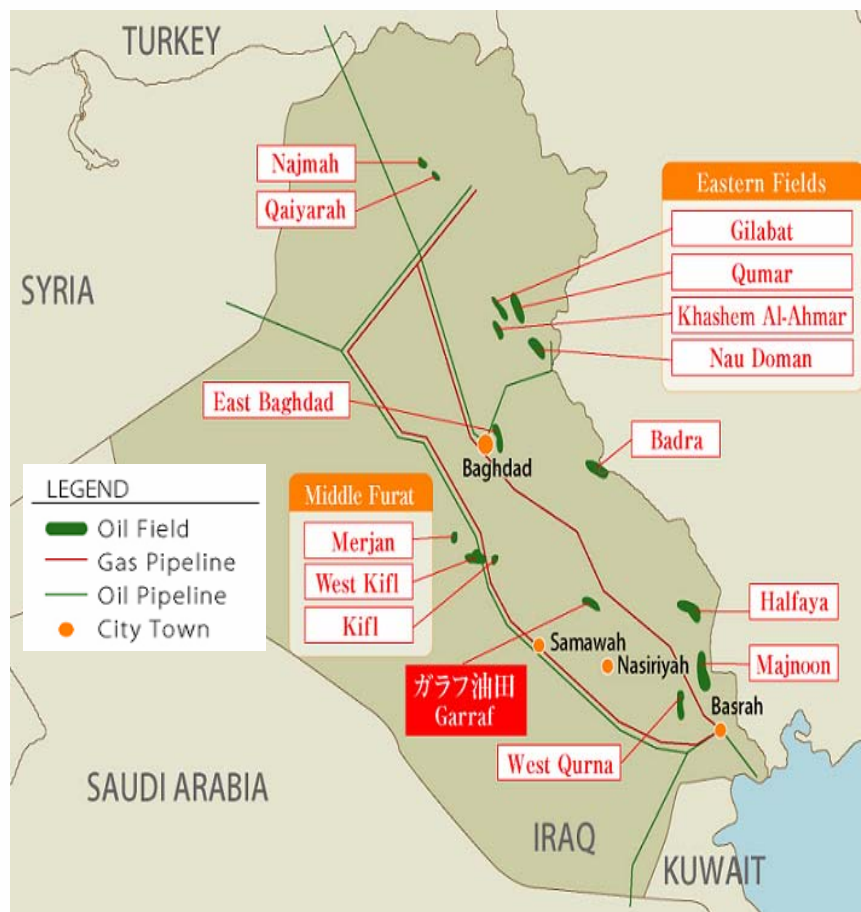
### オイルサンド資源量評価対象鉱区

Hangingstone、Chard、Corner、Thornburyの各鉱区について評価を実施。対象鉱区は、単独保有と共同保有からなり、評価対象面積は788.4km<sup>2</sup>(gross)、373.4km<sup>2</sup>(net)。なお、Liege鉱区にもビチューメンが賦存しますが、賦存状況から当面開発対象としていません。

# 海外事業現況 ② イラク

## ガラフ油田開発プロジェクト:概要

- 契約種類: 開發生産サービス契約
- 契約期間: 20年間(最大5年延長可)
- 契約当事者: 国営南部石油公社(SOC)
- 契約発効日: 2010年2月10日



### --- Contractor ---

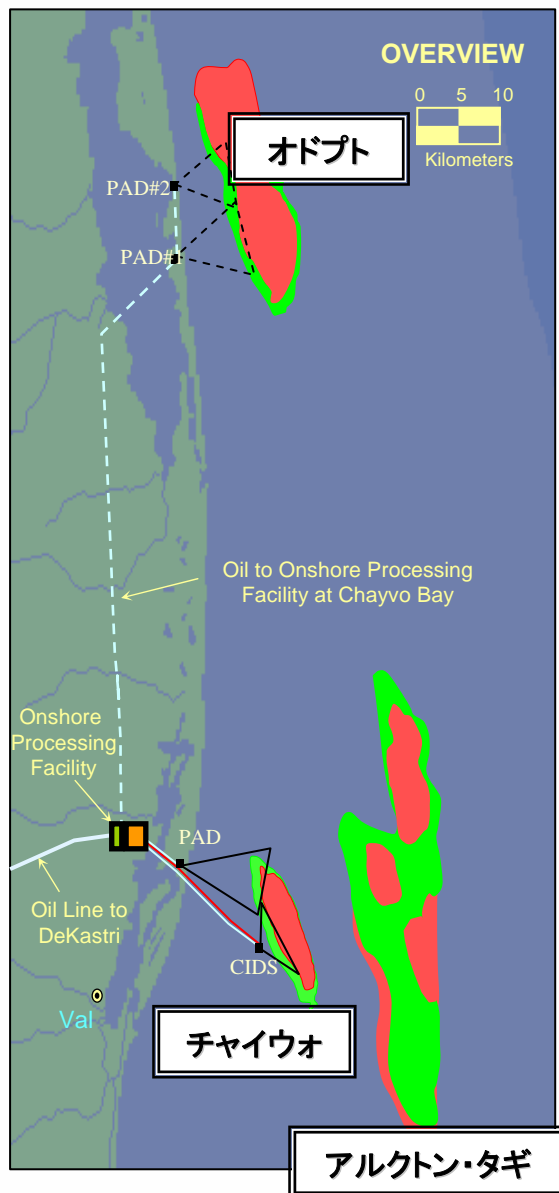
	Petronas (Operator)	JAPEX	国営北部 石油公社 (NOC)
資金負担	60%	40%	- %
収益配分	45%	30%	25%

- 開發生産計画: 早期生産システム

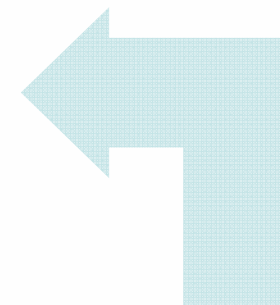
2012年 5万bbl/dにて生産開始、その後、段階的に生産量を上げ(+5万bbl/年)、2016年 23万bbl/dの目標安定生産量に到達

- 契約期間中の  
累計生産量: 約12億bbl

# 海外事業現況 ③ サハリン1 プロジェクト



サハリン1 コンソーシアム		
Exxon Neftegas Ltd.	米	30.0%
サハリン石油ガス開発 (株)	日	30.0%
Sakhalinmorneftegas-Shelf	露	11.5%
RN-Astra	露	8.5%
ONGC Videsh Ltd.	印	20.0%



2005年10月、  
原油生産開始(ロシア国内向)

2006年10月、  
Sokol原油として輸出開始

2007年2月、  
目標ピーク生産量25万bbl/d 到達

2008年1月、累計1億bbl 達成 2008年3月、初配当実施

■ オドプト 2009年5月、生産井掘削開始  
2010年後半、生産開始(予定)

■ アルクトン・タギ 開発に向け準備中

サハリン石油ガス開発(SODECO)	
経済産業大臣	50.00%
石油資源開発 (株)	14.46%
伊藤忠商事 (株)	14.46%
丸紅 (株)	11.68%
その他	9.40%

## 海外事業現況 ④ リビア 40-3/4 鉱区、176-4 鉱区

(株)ジャペックスリビア: 連結子会社 (当社100%出資)

海上40-3/4 鉱区(地中海沿岸部)

□ 権益比率: 42% (オペレーター)

□ 作業実績・計画

2009年3-4月: 試掘1号井掘削 (廃坑)

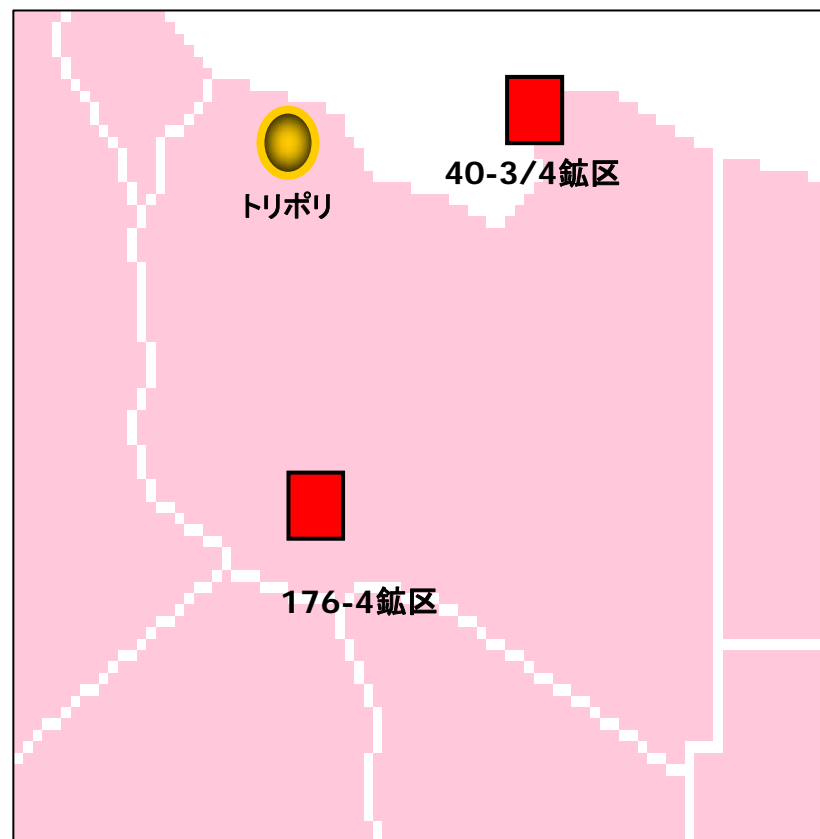
2010年5月: 試掘2号井 開坑

陸上176-4 鉱区(南西部ムルズク地域)

□ 権益比率: 100% (オペレーター)

□ 作業実績

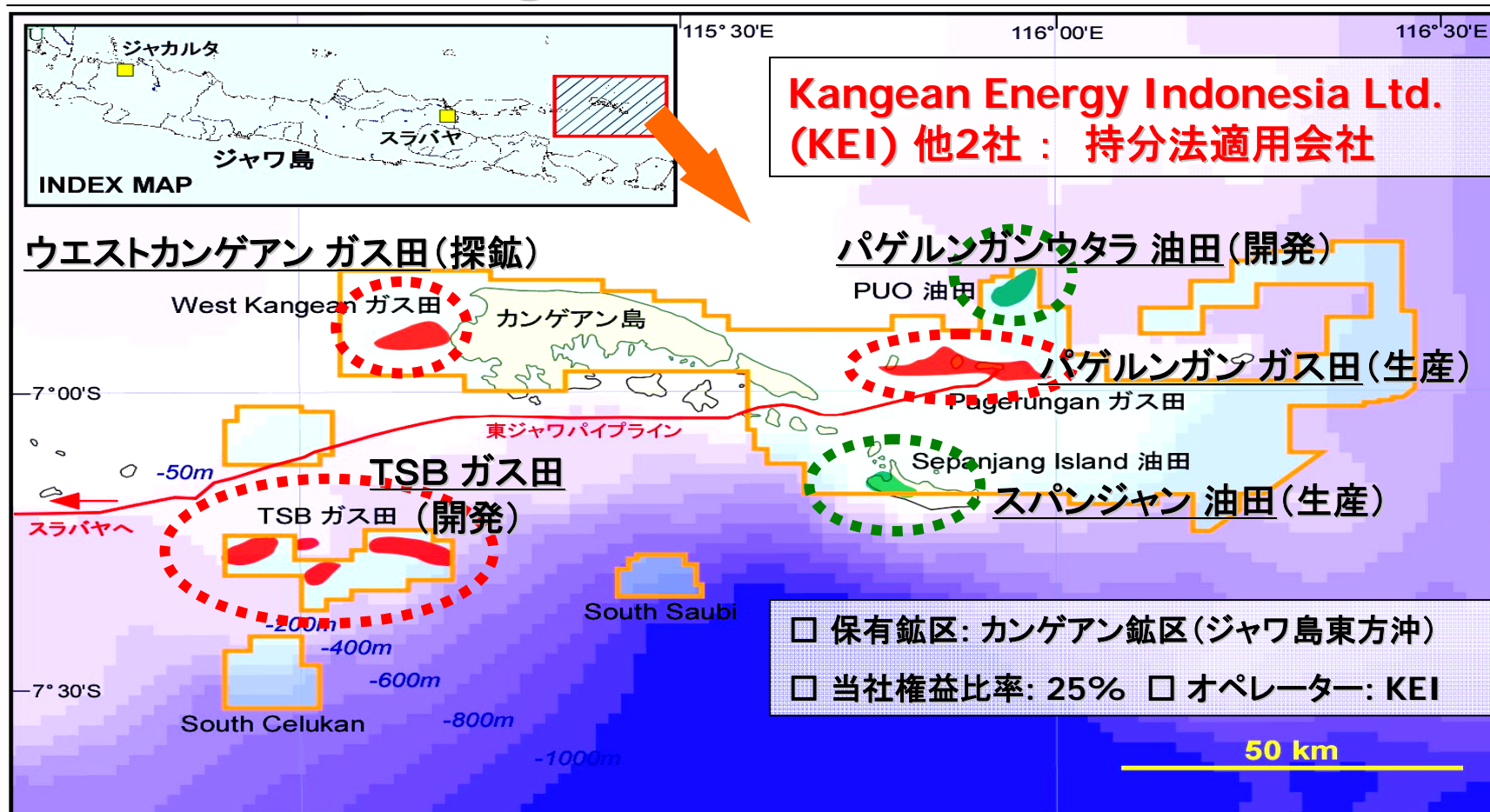
2009年7-9月: 試掘1号井掘削 (廃坑)



国営石油会社から技術研修生を受入れ、関係強化を図る

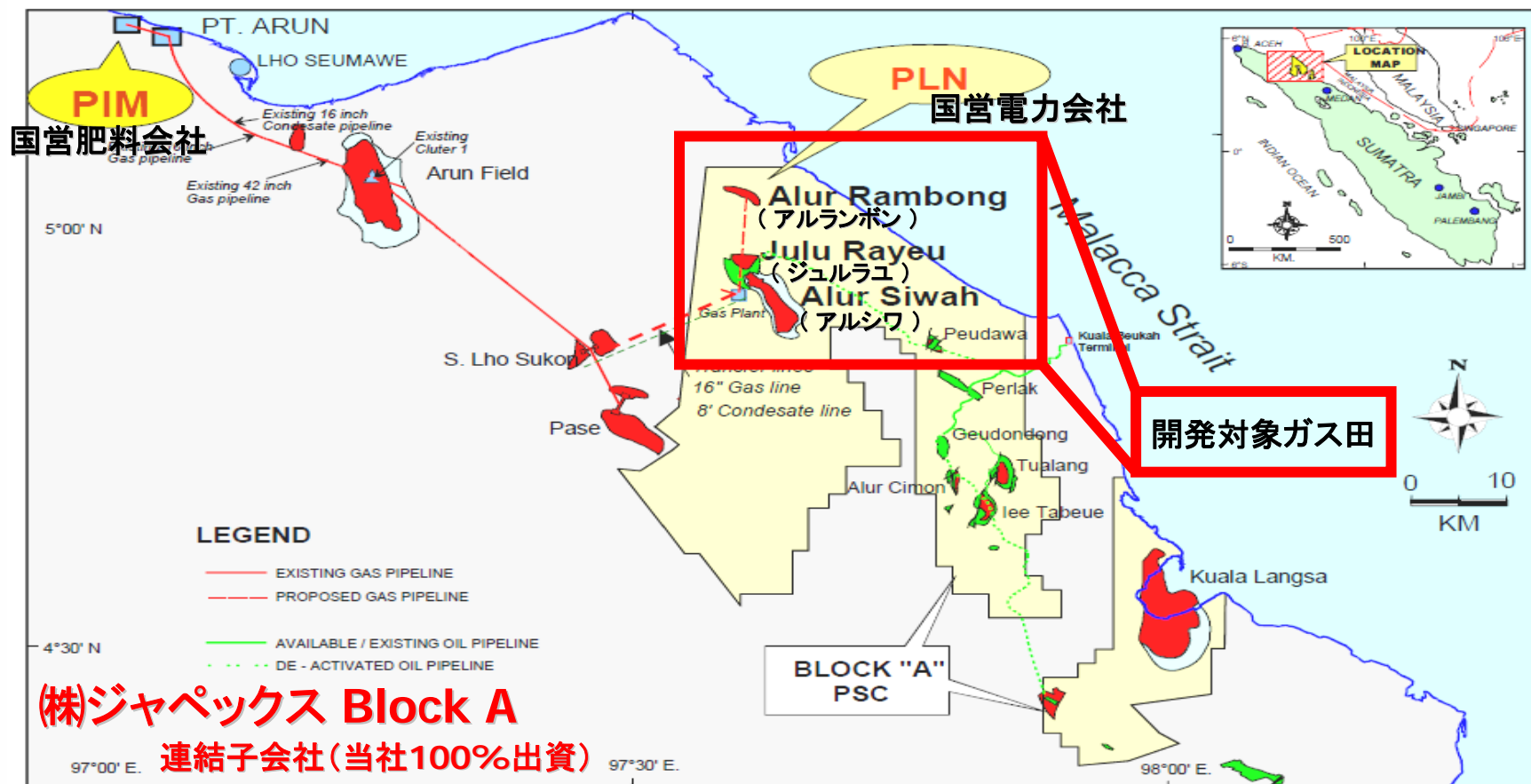


# 海外事業現況 ⑤ インドネシア カンゲアン鉱区



- 現在の生産規模は、原油換算約1万boe/d
- パゲルンガンウタラ油田: 2010年10月 原油4,500bbl/dでの生産開始(予定)
- TSBガス田: 2011年末、3億cf/d(原油換算約5万boe/d)の生産開始を目指す
- 生産量は約6万boe/dに拡大 ■ PS契約: 2030年まで

# 海外事業現況 ⑥ インドネシア A鉱区



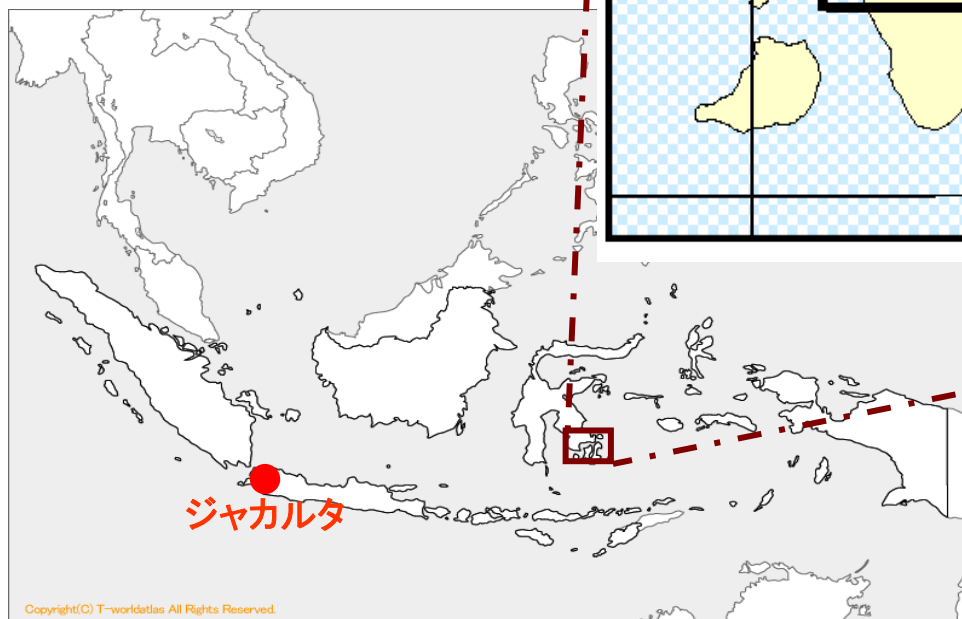
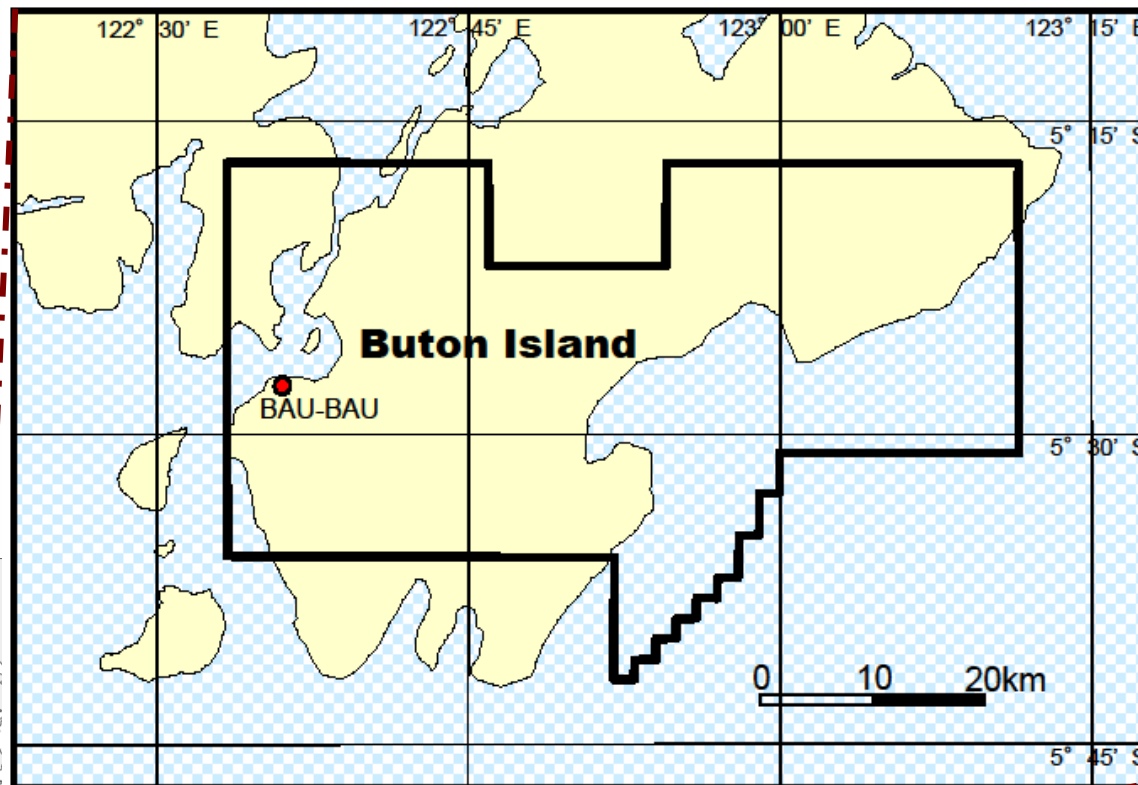
**(株)ジャペックス Block A**  
 連結子会社(当社100%出資)

- 保有鉱区: A鉱区(スマトラ島北部) □ 権益比率: 16.67% □ オペレーター: Medco社
- PS契約: 2011年8月末まで ⇒ 【延長申請中】
- PS契約延長承認後 ⇒ 2012年央 生産開始に向け開発に着手  
 3つのガス田(AR, AS, JR)を併せて、  
 最大約1億cf/d(原油換算 約2万boe/d)の生産規模

# 海外事業現況 ⑦ インドネシア ブトン鉱区

**(株)ジャペックスブトン**  
 連結子会社(当社100%出資)

- 2008年 作業実績  
 空中重磁力調査  
 及び 2D地震探鉱調査
- 2010年 第4四半期  
 試掘義務井1坑掘削(準備中)



- 保有鉱区: ブトン鉱区  
 (南東スラウェシ州 ブトン島陸・海域)
- 権益比率: 40%
- オペレーター: (株)ジャペックスブトン

Copyright(C) T-worldatlas All Rights Reserved.

# 技術研究開発への取り組み

## ■ C C S （二酸化炭素地中貯留）

日本CCS調査(株)(2008年5月設立)により、  
国内のCCS大規模実証試験の実施に向けた以下の調査を実施

- (NEDO 委託事業) 発電からCO<sub>2</sub>貯留に至るトータルシステムのフィジビリティ・スタディー
- (METI 委託事業) 二酸化炭素削減技術実証試験

## ■ G T L （ガス・トゥ・リキッド）

日本GTL技術研究組合(2006年10月設立)により、商業化に向けた実証試験を実施

- ・ 2009年4月 実証プラント(500bbl/d)完工
- ・ 2009年～2011年 実証運転

## ■ メタンハイドレート

2018年の商業生産を目指す国のメタンハイドレート開発計画への参加協力

## ■ D M E （ジメチルエーテル）

燃料DME製造(株)による普及促進活動

- ・ 2008年6月 製造プラント(8万トン/年)完工
- ・ 2009年1月～ 出荷開始

# 2010年3月期 決算概要

---

専務取締役 佐藤 弘

## 10/3月期 決算概要 [ハイライト]

[百万円]	08/3月期 通期実績 (a)	09/3月期 通期実績 (a)	10/3月期 通期				実績 (a)
			当初予想 5.14公表(e)	修正予想 8.7公表(e)	①修正予想 11.6公表(e)	②修正予想 2.9公表(e)	
売上高	207,638	202,127	129,313	153,422	173,148	177,851	179,752
営業利益	19,625	20,090	931	6,454	7,994	11,192	13,119
経常利益	27,247	22,358	5,919	10,748	12,534	19,728	23,206
当期純利益	20,097	12,560	4,726	7,744	9,135	15,566	17,939

## [油価と為替の前提]

原油CIF価格 (USD / bbl)	76.21	89.71	40.00	57.38	64.31	66.41	67.50
為替/米ドル (Yen / USD)	114.66	102.56	90.00	91.39	92.43	92.73	92.74
ビチューメン価格 (CAD / bbl)	35.02	66.57	30.00	43.60	46.61	50.25	50.15
為替/カナダドル (Yen / CAD)	116.35	74.84	75.00	80.00	80.00	88.07	88.07

## ◆10/3月期 (5月)当初予想 ⇒ (8月,11月)修正予想 ① ②

➡ 原油価格、ビチューメン価格の回復      ➡ 天然ガス需要の減少

## ◆10/3月期 (11月)修正予想 ② ⇒ (2月)修正予想 ③

➡ 原油価格上昇      ➡ 受取配当金収入の増加      ➡ 持分法適用会社持分変動利益の計上

## ◆10/3月期 (2月)修正予想 ③ ⇒ 実績

➡ 原油価格上昇、天然ガス需要の増加      ➡ 持分法投資利益の増加、海投損引当金取崩益の増加

営業利益 131億円(+19億円), 当期純利益 179億円(+23億円)

## 10/3月期 原油販売 [前期比]

	08/3月期		09/3月期		10/3月期		比較増減(前期比)	
	4-9月 2Q累計(a)	4-3月 通期(a)	4-9月 2Q累計(a)	4-3月 通期(a)	4-9月 2Q累計(a)	4-3月 通期(a)	2Q累計	通期
原油 販売量 (千KL)	1,227	2,450	1,028	2,337	967	2,125	▲60	▲211
原油 売上高 (百万円)	59,177	128,391	73,668	115,933	33,008	80,742	▲40,659	▲35,190

## [権益原油の内訳]

国産原油 販売量 (千KL)	253	574	255	569	250	564	▲4	▲5
国産原油 売上高 (百万円)	12,805	32,170	19,709	30,974	9,394	23,122	▲10,314	▲7,852
海外原油 販売量 (千KL)	83	144	76	141	23	25	▲53	▲115
海外原油 売上高 (百万円)	3,806	7,483	5,527	9,065	598	690	▲4,929	▲8,375
ビチューメン 販売量 (千KL)	195	409	205	417	188	411	▲17	▲6
ビチューメン 売上高 (百万円)	4,851	10,468	9,500	13,087	4,140	11,433	▲5,360	▲1,653

## [油価と為替の前提]

原油CIF価格 (USD / bbl)	65.08	76.21	115.39	89.71	56.83	67.50	▲58.56	▲22.22
為替/米ドル (Yen / USD)	119.97	114.66	105.20	102.56	96.36	92.74	▲8.84	▲9.82
ビチューメン価格 (CAD / bbl)	33.91	35.02	69.77	66.57	42.10	50.15	▲27.66	▲16.42
為替/カナダドル (Yen / CAD)	116.24	116.35	105.21	74.84	82.97	88.07	▲22.24	+13.23

本資料における「国産原油」の販売量及び売上高は、買入原油を除いております。また、「海外原油」の販売量及び売上高は、海外連結子会社2社(新南海石油開発(株)、Japex (U.S.) Corp.)の合計数値を記載しています。

## 10/3月期 天然ガス販売 [前期比]

	08/3月期		09/3月期		10/3月期		比較増減(前期比)	
	4-9月 2Q累計(a)	4-3月 通期(a)	4-9月 2Q累計(a)	4-3月 通期(a)	4-9月 2Q累計(a)	4-3月 通期(a)	2Q累計	通期
天然ガス 販売量 (百万M3)	631	1,486	647	1,485	643	1,499	▲3	+13
天然ガス 売上高 (百万円)	20,102	48,982	22,906	54,126	24,924	55,593	+2,017	+1,467
うち、 国産ガス 販売量 (百万M3)	487	1,124	481	1,101	454	1,079	▲27	▲22

本資料における「国産ガス」の販売量は、買入ガスを除く数値を記載しています。

**販売量** 前期比: +0.8% 増加、ほぼ昨年並み

- ◆ 経済情勢の悪化など 産業用需要、都市ガス大口需要の減少
- ▶ 新規 産業用需要への供給開始

**売上高** 前期比: +2.7% 増加

- ◆ LNG・CIF連動型価格フォーミュラを採用する販売価格は下落
- ▶ 販売量の増加に加えて  
過年度価格改定差額等 精算 など



## 10/3月期決算 損益変動要因 [前期比]

[百万円]	09/3月期 通期実績 (a)	10/3月期 通期実績 (a)	比較増減
売上高	202,127	179,752	▲22,374
売上総利益	67,680	54,285	▲13,394
探鉱費	15,352	10,396	▲4,956
販管費	32,237	30,769	▲1,467
営業利益	20,090	13,119	▲6,971
営業外損益	2,267	10,087	+7,819
経常利益	22,358	23,206	+848
特別損益	▲5,250	162	+5,412
法人税等	3,565	4,443	+877
少数株主利益	981	986	+4
当期純利益	12,560	17,939	+5,378

増減要因(MEMO)

「増益要因を+」、「減益要因を▲」で記載

## 【売上総利益】

国内原油天然ガス ▲50億円  
海外連結子会社 ▲79億円

## 【探鉱費】

国内探鉱 +51億円 海外探鉱 ▲1億円

## 【販管費】

中国石油特別収益金 +18億円  
減価償却費 ▲3億円

## 【営業外損益】

受取配当金 +28億円  
有価証券評価損 +18億円  
廃鉱費用引当金繰入額 +12億円  
為替差損 +12億円

## 【特別損益】

採掘井除却損及び減損損失 +45億円  
持分法適用会社持分変動利益 +12億円

# 2011年3月期 業績予想

---

専務取締役 佐藤 弘

## 11/3月期 業績予想 [ポイント]

[百万円]	09/3月期		10/3月期		11/3月期		比較増減(前期比)	
	4-9月 2Q累計(a)	4-3月 通期(a)	4-9月 2Q累計(a)	4-3月 通期(a)	4-9月 2Q累計(e)	4-3月 通期(e)	2Q累計	通期
売上高	110,912	202,127	70,567	179,752	91,123	196,891	+20,556	+17,138
営業利益	12,546	20,090	2,864	13,119	4,185	13,267	+1,321	+148
経常利益	13,321	22,358	5,184	23,206	5,231	14,908	+47	▲8,299
当期純利益	9,371	12,560	3,498	17,939	2,143	10,265	▲1,356	▲7,675

## [油価と為替の前提]

原油CIF価格 (USD / bbl)	115.39	89.71	56.83	67.50	80.00	80.00	+23.17	+12.50
為替/米ドル (Yen / USD)	105.20	102.56	96.36	92.74	90.00	90.00	▲6.36	▲2.74
ピチューメン価格 (CAD / bbl)	69.77	66.57	42.10	50.15	58.35	56.65	+16.25	+6.50
為替/カナダドル (Yen / CAD)	105.21	74.84	82.97	88.07	85.00	85.00	+2.03	▲3.07

## 【 11/3月期 前期比 ポイント 】

- 営業利益 +1 億円
  - 売上総利益 +13 億円
  - 探鉱費 販管費 ▲11 億円 国内探鉱費

---

- 経常利益 ▲82 億円
  - 営業外損益 ▲84 億円 受取配当金 持分法投資利益

---

- 当期純利益 ▲76 億円
  - 特別損益 ▲22 億円 新会計基準の適用
  - 法人税他 +28 億円

## 11/3月期 原油販売見通し

	09/3月期		10/3月期		11/3月期		比較増減(前期比)		
	4-9月 2Q累計(a)	4-3月 通期(a)	4-9月 2Q累計(a)	4-3月 通期(a)	4-9月 2Q累計(e)	4-3月 通期(e)	2Q累計	通期	
原油	販売量 (千KL)	1,028	2,337	967	2,125	969	2,017	+2	▲108
	売上高 (百万円)	73,668	115,933	33,008	80,742	40,536	83,713	+7,527	+2,971
[権益原油の内訳]									
国産原油	販売量 (千KL)	255	569	250	564	270	594	+19	+30
	売上高 (百万円)	19,709	30,974	9,394	23,122	12,297	26,804	+2,903	+3,682
海外原油	販売量 (千KL)	76	141	23	25	2	5	▲21	▲21
	売上高 (百万円)	5,527	9,065	598	690	67	128	▲531	▲562
ビチューメン	販売量 (千KL)	205	417	188	411	196	410	+8	▲1
	売上高 (百万円)	9,500	13,087	4,140	11,433	6,116	12,430	+1,976	+997
[油価と為替の前提]									
原油CIF価格 (USD / bbl)	115.39	89.71	56.83	67.50	80.00	80.00	+23.17	+12.50	
為替/米ドル (Yen / USD)	105.20	102.56	96.36	92.74	90.00	90.00	▲6.36	▲2.74	
ビチューメン価格 (CAD / bbl)	69.77	66.57	42.10	50.15	58.35	56.65	+16.25	+6.50	
為替/カナダドル (Yen / CAD)	105.21	74.84	82.97	88.07	85.00	85.00	+2.03	▲3.07	

本資料における「国産原油」の販売量及び売上高は、買入原油を除いております。また、「海外原油」の販売量及び売上高は、海外連結子会社2社(新南海石油開発株、Japex (U.S.) Corp.)の合計数値を記載しています。

## 11/3月期 天然ガス販売見通し

	09/3月期		10/3月期		11/3月期		比較増減(前期比)	
	4-9月 2Q累計(a)	4-3月 通期(a)	4-9月 2Q累計(a)	4-3月 通期(a)	4-9月 2Q累計(e)	4-3月 通期(e)	2Q累計	通期
天然ガス								
販売量 (百万M3)	647	1,485	643	1,499	706	1,576	+63	+77
売上高 (百万円)	22,906	54,126	24,924	55,593	26,819	60,376	+1,895	+4,782
うち、 国産ガス								
販売量 (百万M3)	481	1,101	454	1,079	534	1,188	+79	+109

本資料における「国産ガス」の販売量は、買入ガスを除く数値を記載しています。

**販売量** 前期比: +5.1% 増加

- ▲ 産業用需要、都市ガス大口需要の回復
- ▲ 前期中 新規 産業用需要の増加

**売上高** 前期比: +8.6% 増加

- ▲ 販売量の増加に加えて
- ▲ LNG・CIF連動型価格フォーミュラを採用する販売価格は上昇
- ▲ 一般ガス事業者向け 混合ガス原料費調整制度 通年適用 (適用開始 2010/1~)
- ▲ 過年度価格改定差額等精算金(2010/3月期)

## 11/3月期業績予想 損益変動要因

[百万円]	10/3月期 通期実績 (a)	11/3月期 通期予想 (e)	比較増減
売上高	179,752	196,891	+17,138
売上総利益	54,285	55,595	+1,309
探鉱費	10,396	11,795	+1,398
販売費	30,769	30,533	▲237
営業利益	13,119	13,267	+148
営業外損益	10,087	1,640	▲8,447
経常利益	23,206	14,908	▲8,299
特別損益	162	▲2,073	▲2,235
法人税等	4,443	1,759	▲2,684
少数株主利益	986	811	▲175
当期純利益	17,939	10,265	▲7,675

増減要因(MEMO)

「増益要因を+」、「減益要因を▲」で記載

## 【売上総利益】

国内原油天然ガス +22億円  
海外連結子会社 ▲7億円

## 【探鉱費】

国内探鉱 ▲32億円 海外探鉱 +19億円

## 【営業外損益】

受取配当金 ▲66億円  
持分法投資利益 ▲18億円

## 【特別損益】

資産除去債務に関する  
会計基準適用に伴う影響額 ▲20億円

# 油価・為替の前提及び収益への影響

[油価と為替の前提]	09/3月期	10/3月期	11/3月期		通期 (e)	比較増減 (前期比)
	通期 (a)	通期 (a)	1H (1-2Q) (e)	2H (3-4Q) (e)		
原油CIF価格 (USD / bbl)	89.71	67.50	80.00	80.00	80.00	+12.50
為替/米ドル (Yen / USD)	102.56	92.74	90.00	90.00	90.00	▲2.74
ビチューメン価格 (CAD / bbl)	66.57	50.15	58.35	55.10	56.65	+6.50
為替/カナダドル (Yen / CAD)	74.84	88.07	85.00	85.00	85.00	▲3.07

**原油価格前提 USD 80 /bbl**      USD 1 /bbl の 油価上昇  
 による 利益増加額は ……  
**営業利益 350百万円、当期純利益 220 百万円**

注 ビチューメンの販売価格は通常の原油価格とは異なる動きを示すことが多いため、オイルサンド事業に関する油価変動の影響は、ここに示した数値には含まれていません。

**為替前提 90 円/USD**      5 円/USD の円安  
 による利益増加額は ……  
**営業利益 850百万円、当期純利益 540 百万円**

注 為替変動の影響に関して、左記に示したもの以外に、当社及び連結子会社の保有する外貨建金銭債権債務(ヘッジ会計適用分を除く)の為替レート換算差額が発生します(評価差額を営業外損益に計上)。

**ビチューメン前提 CAD 56.65/bbl、85 円/CAD**      CAD 1/bblのビチューメン価格  
 上昇による 利益増加額は ……  
 CAD 56.65 /bbl [ 1H (1月- 6月) 58.35 + 2H (7月- 12月) 51.10 ]  
**営業利益 258 万CAD、220 百万円 当期純利益 226 万CAD、190 百万円**

上記は参考値であり、実際の利益は原油価格や為替以外の様々な要因によっても影響されます。

